



大地申第6号 「東浦和駅業務委託について」に関する申し入れ団体交渉開催！その3

6. 東浦和駅の出札窓口閉鎖後の南浦和駅の出札予備窓口の取扱いについて明らかにすること。

回答：南浦和駅の出札の予備窓口での対応については、現行通り実施していく考えである

《交渉議事抜粋》

組：臨時窓口が年間140日も開設され、業務量を考慮すれば2窓とすべきと考えるがどうか？

会：実際の業務量はそこまでではない。他との比較では予備窓を開けすぎだという認識もある。今後の状況を踏まえて判断していくべき。

組：現状として、東浦和駅の出札閉鎖に対し、お客さまから怒りや疑問の声が多数出ている。実際に発売状況を調査したが、10月に入ってから定期券は1.5倍になりジパングも増えている。そういう現実も考慮してほしい。

会：会社もデータは把握している。推移を見守っていきたい。現行予備窓を開設している状況も踏まえて、今後も利用しやすい環境づくりを考えていく。

組：窓口をすぐに増やす事は難しいとしても、今後の推移や社員の声を踏まえて考えていくべき。

会：お客さまのご利用状況は考慮しなくてはならない。

組：予備窓口の開設を三大輸送の時期として実施してきたが、定期多売期も含めて開設すべきではないか。

会：お客さまのご利用状況を考慮していく。

組：教育などは、現場の声を受け止めて進めて頂きたい。また、窓口については現場の状況を踏まえて頂きたい。

会：安全を守るという点は変わらない。JESSとも連携していく。利用状況はしっかり把握していく。「委託を実施して終わり」ではない。

※予備窓口の開設状況と、東浦和駅出札閉鎖以降の南浦和駅出札窓口の利用状況を議論し、今後のお客さまの利用状況を考慮して、予備窓口の取扱いを判断する事を確認しました！

**交渉での確認事項を踏まえて
職場現実と会社施策を検証し、
安全で働きがいのある職場を築こう!!**

